

昭和55年8月10日発行



NO. 135

55

8

おもな内容

- | | | |
|------------------|-----|-----|
| ■6年目を迎えた町史編さん活動… | 2-3 | ページ |
| ■財政事情の公表… | 4-5 | ページ |
| ■写真で見る“川辺おどり”… | 6-7 | ページ |
| ■はなしのひろば… | 8-9 | ページ |
| ■保健だより… | 10 | ページ |
| ■おしらせ… | 11 | ページ |

発行・岐阜県川辺町 ■編集・川辺町役場企画室 ■印刷・四橋印刷KK

出来栄えはいかに
婦人会員と福寿大学生が陶器づくりに挑戦

婦人会と福寿大学の学習講座に、本年度から新しく陶芸教室が加えられ、七月から川辺中の図工室で“授業”をはじめました。矢田元雄町教育長を講師に、『ろくろ』の使いかたや道具の種類などの説明をうけたあと実地に陶器づくりを勉強、はじめての体験とあって、なれない手つきで、『ろくろ』をまわしていました。





西村恵弘さんから贈られた屋敷で新たに見つかった古文書類を整理する町史編さん委員ら=中川辺で

町史編さんことして6年

来秋には「史料編」上巻を発刊

町の歴史を永く後世にとどめよう、町史編さん作業がはじまってからまる六年たちました。当初の予定より完成は少しおくれそうですが、編さん委員や町の人たちの熱意により作業は順調に進展、来年秋には「史料編」上巻が発刊される予定です。



四十九年四月
から作業開始

人々の口から口へと語りつがれ、

今まで伝えられてきた本町の歴史も、めまぐるしい社会の流れや古老の他界などとともに、いつの間にか忘れ去られようとしていました。そのため町では、旧家などをうもれたままになっていた古い文献や資料などにより、現在の町を築く基礎となつた先人の努力をしおび、次代へ伝えるため、編さん作業にとりかかりました。

町史編さん室を開設して、編さん作業に本腰をいれるようになつたのは四十九年四月から。町の歴史に深い関心を寄せる人たちの強い希望に、町教育委員会がこころをいたものです。

開設当初のスタッフは、木下尚年さん（中川辺）平岡秀市さん（石神）加藤丈作さん（同）の三人で

川辺のあゆみ

本町に人類が住みはじめたのは、従来は弥生時代といわれていたが、発掘石器などから、すでに三千年以前に、上米田地域に住居があつたと推測される。

狩猟と採集の日々、やがて農耕を知り、稻作経済へと移行していく古代人。このころになると、各地に小グループの住居が見られるようになつてくる。

中央政庁は時代の推移とともに、いく度かの戦乱に見舞われ、戦火をのがれた多くの武人が、川辺に定住するようになつていった。

当時の農民は、合戦とともにれば食糧の供出、あるいは人夫の強制徴発など、苦しい日を余儀なくされていた。家はかやぶき、ゆかにむしろを敷き、新田の開発と山林にマキを求めるのが日課であった。江戸時代になると世情も安定し、それぞれの領主も定められていった。中川辺村などは旗本大嶋家の支配となり、比久見村などは名古屋藩、その他は幕領地となつていた。そして、これら十一か村には

楽しい夏の日・・・川辺おどり

たくさんすくえたかな——水そうのまわりに集まって、こどもたちは金魚すくいに熱中
七月十九、二十日の両日、商工会青年部主催の「川辺おどり」が、中川辺の本町通を主会場に盛大に開かれました。この催しはことしで二回目。「仮面ライダーショー」や「ザ・ドーナツ歌謡ショー」「カラオケ大会」など盛りだくさんの行事で楽しい夏の日をすごしました。



路上に陣どってテレビマンがの人気者などの落書きにいっしうけんめいのこどもたち



CBCラジオの「ラジオ朝市」でさわやかな声をきかせてくれる「ザ・ドーナツ」が楽しい歌謡ショーを展開

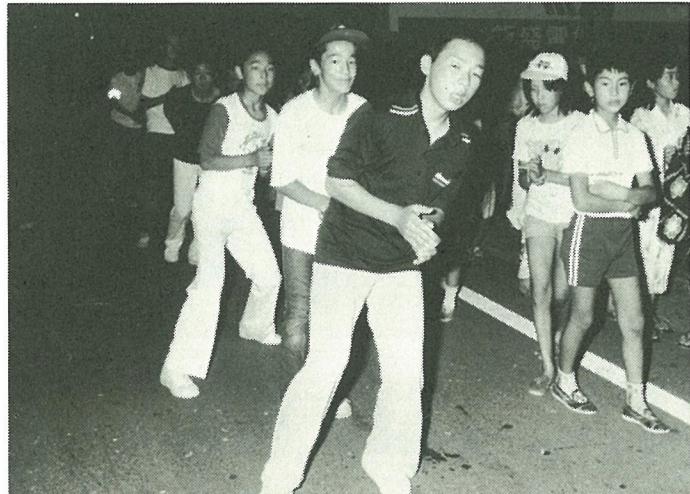
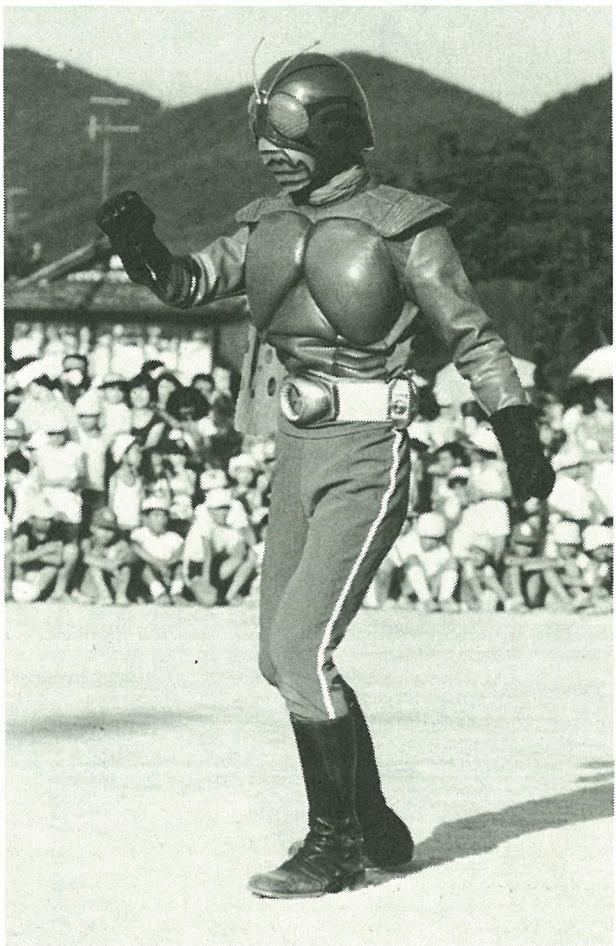


川辺おどりに花を添えた「ミス商栄会」の平岡智子さん
(中央)と準ミスの加藤幸子さん(右)村山恵子さん



「カラオケ大会」で自慢の歌を披露。聴衆も盛んに拍手

「どもたちの人気の的「スカイライダー」が登場、悪者相手にかっこよく活躍



夜もふけて踊りは最高潮。身ぶり手ぶりも軽やかに



商工会青年部創立10周年を祝ってモチ投げも

